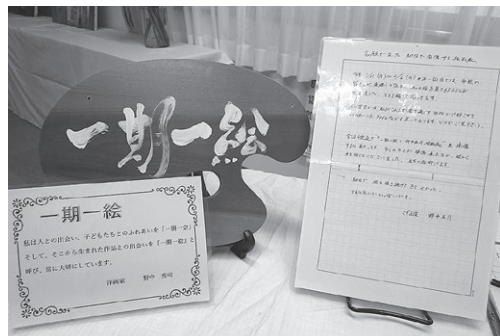


第1部1/31～2/6、第2部2/28～3/6の
2回に分けて開催されました



和田公民館で開催されました、第一期絵、野中秀司絵画展第1部を鑑賞しに行きました。一緒に絵画展を鑑賞しました。皆さんに感想をお聞きしました。幼い子の絵が、いきいきと描かれていました。和田お住まいの、野中先生の絵画展が見れ、先生の事が知れて良かったです。子どもの表情が良かったです。表情の一つ一つがとても



和田の
世帯数・人口

世帯数	1,512戸
人口	4,208人
男	2,055人
女	2,153人

(令和4年. 3.1現在)

野中秀司絵画展

細かく、色づかいがきれいで良かったです。子ども達の姿が描かれていて良かったです。かわいらしい表情でした。子どもの絵が、ほっこりして良かったです。…の感想でした。今回絵画展を鑑賞する機会があり、ゆったりとした時間で子ども達の絵で癒されました。鑑賞できて良かったです。西原 北澤

2/19

ケ・セラコンサート

2月19日(土) 和田公民館大会議室で、楽団ケ・セラのリモート演奏会が、開かれました。



色々な障がい乗り越えてがんばって演奏している方々の姿に感動し、会場全体があたたかくなる様な、楽しい音楽を響かせて、心が洗われる思いでした。毎日4時間の練習をしている。とお聞きしました。が、メンバーを支え指導されている方々に頭が下がる思いです。早くコロナが終息をし、楽しい演奏を沢山の方々に届けられる日が来る事を、祈念いたします。当日ケ・セラコンサートに参加された方のお二人に、感想をお聞きしました。ケ・セラコンサートを見て、今、演奏者達のすばらしい音楽を目の当たりにして、感動と感謝しかない。

毎日の午前・午後2時間ずつの練習の成果だそう。そして演奏会は自分達の仕事としてしていると事だった。笑顔で楽しんで演奏してくれている。元気いっぱいである。力強い。



一緒に振付をする曲も信コンサートでした。が、ケ・セラの皆さんの一生懸命さが伝わります。楽しく、生き生き演奏する姿に私まで元気をもらいました。福澤

2/5

白菜キムチ漬け講座

2月5日(土)、新村にある「アリラン」店舗でキムチ教室が開催されました。感染対策を講じたうえで初めてのキムチ作りに挑戦しました。

まず、白菜ですが2分の1の大きさにカットしたものを使います。あらかじめ軽く塩漬けしたものを使うと後の作業がしやすいそうです。キム



白菜の漬け方を聞く
チの材
料には、
千切り
にした
長ネギ
シヨウ
ガ、す
りおろ
したリ



ンゴ、ニンニク、輪切りにしたイカ、ニラなどです。あと、この他に韓国産の唐辛子の粉末2種類にイワシの醤油、砂糖などを混ぜ合わせ作ります。見た目ではすごく辛そうな感じなのですが、講師の方によれば韓国産の唐辛子はたくさん量をに入れてもそんなに辛くないそうです。そして、この材料を白菜にはさみながらぬっていきます。塩漬けで白菜自体がやわらかいのでぬりやすいですし、ぬり終えて丸める時もやりやすかったです。本格的なキムチは今まで作ったことがなかった。なので、良い体験になりました。赤羽

和田の寺社 ⑥

真光寺

(南和田)

真光寺の歴史は「和田の歴史」によると草創天文6年(1537)に建つと記されています。また、創建は天文20年(1551)とありおよそ470

年の歴史を和田の皆様と共に歩んで来ております。お寺の山号は現在「大悲山」その昔は「観音山」。院号は「慈眼院」。寺号は「真光寺」。ご本尊は江戸初期作の阿弥陀如来三尊像。また、南和田地区蚕社として聖観音菩薩像(松本三十三観音第十八番札所)。お念佛をお唱えすることを第一に大切にしている、浄土宗鎮西派京都総本山知恩院の末寺となります。



山号「大悲山」

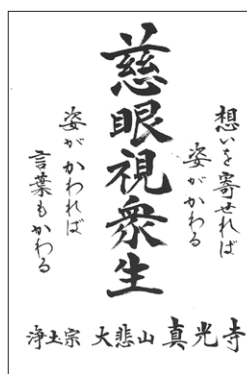


院号「慈眼院」

その昔、江戸時代元禄9年(1696)の「信州松本領並御料所浄土宗寺院開山記」によると「観音山慈眼院真光寺」とあり、山号院号の「観音山」「慈眼院」と云う事からみると創建当時は現観音堂の聖観音菩薩様がご本尊であった事がわかります。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大により、従来の当たり前であったことが当たり前で無くなり、人と人とのつながり方が一変いたしました。便利なオンライン会議やSNSでの交流など便利になる反面、不安やストレスを抱え鬱憤をインターネット上で発散する等といういろいろなことが問題になっております。どうしても世の中が少しでも「明るく正しく仲良く」ならないかと思うばかりです。

観音様のお経の中に「慈眼視衆生(しげんししゅじょう)」と云う言葉があります。これは「想いを寄せれば姿がかわる、姿がかわれば言葉もかわる」と訳されます。今この世の中を生きるのに様々な苦しみや不平不満が渦巻いています。しかしながらそれをわがままに振る舞う事はどうなのでしょうか? そうであるからこそ、家族、お友達、職場の同僚などの個人一人一人が、相手に思いを寄せ、想いを寄せた言葉で接する事ができれば、世の中がもっと「よい良い姿」になっていくと思うのです。



時節、いつ終わるかかわらない、元に戻れるのかさえわからない世の中だからこそ、皆が手をつなぎ心をつなぎより良い地域人を育てていく事が出来るよう心より祈念いたします。

真光寺住職 近藤秀祐

12月18日(土)に和田公民館でしめ縄教室が開催されました。10人ほどが参加をして、正月用に飾るしめ縄や、ちよつと珍しいしめ縄のリースなどを作りました。

参加者の中には、私も含めてしめ縄作りが初めてという人がいたので、まずそれを教わりました。意外と難しく、講師の方によると縄をねじっていく向きがあるので、ねじりが右側になるようにやってみたのですが逆の向きに...。どうしても利き手が右手だと左向きによじれてしまいが出来るまでにかなり時間がかかってしまいました。よじる時にわらが乾いている状態だと上手くよじれないので時々霧吹きで湿らせながらやるのがいいそうです。



た。10本束にしたわらを3つ作り、一つの束になるように編み込んでいきこの時にひっぱりすぎると形が悪くなり立体感が出ないのでそこを注意しつつ作ることができました。今回初めて参加しましたが、こういう機会じゃないとしめ縄を作ることがないので1つ良い経験になりました。

赤羽

編集後記

年始から一変して感染レベルが上がってきています。いつ終息するか本当に先が見えなくなりました。

この状況だからこそ、お一人お一人が「思いやり」の心を持ち「支え合い」の輪を広げ、みんなでこの危機を乗り越えていきたいと思います。

これが最後の波でありますように...。 西原 北澤